

3. 住民意向調査の概要

3-1 アンケート調査の実施概要

(1) 調査の目的

本アンケート調査は、「大和高田市立地適正化計画」の策定にあたり、福祉や交通も含めた都市全体の構造のあり方について、市民の意向を調査・把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的として実施したものです。

(2) 調査方法と回収率等

1) 調査方法

市内に居住する満 18 歳以上の市民から 2,000 人を無作為に抽出し、郵送による配布・回収により、調査を実施しました。

2) 調査期間

2016 年（平成 28 年）12 月～2017 年（平成 29 年）3 月

（配布・回収・集計・分析）

3) 回収率

配布数	回収数	回収率
2,000	722	36.1%

※アンケート配布数は、回収率を考慮した上で統計学上有効となるサンプル数に基づき設定。

○回答者の性別は、「男性」42.8%、「女性」53.6%、「無回答」3.6%という構成になっており、女性の回答者がやや多くなっています。

○年齢については、「50～59 歳」が 23.5%を占め最も多く、次いで「60～69 歳」(21.6%)となっています。「70 歳以上」も含めると、50 歳以上の回答者が過半数を占めています。

○居住地区は、「市中心部」が 22.2%を占め最も多く、次いで「市南部」(20.4%)、「市北東部」(20.2%)となっています。

4) 調査結果の見方

○母数となるべき実数は回答者数として示しています。複数回答が可能な設問についても、比率算出の母数は回答者数とし、それぞれの選択肢の比率を算出しています。そのため、複数回答が可能な設問は、回答総数が回答者数を上回り、パーセントの合計は 100.0%を超えています。

○無回答は「回答していないもの」、「判読不明」を表します。

3-2 アンケート調査結果（概要）のまとめ

※参考資料3参照（P70）

◆市民の身近な活動範囲内には、既に主な都市機能施設が立地している。

市民アンケート調査結果によると、現在、市民が徒歩や自転車でできる範囲内の活動として、スーパーでの食品等の買い物（83.8%）、郵便局や銀行の利用（82.0%）、病院等への通院（68.6%）などとなっており、日常的な生活に欠かせない都市機能施設が、市民が徒歩や自転車でできる範囲内に既に立地していると考えられます。

このことから、本市では、市民の多くが生活する市街地において、一定の居住環境が確保され、既に都市機能が集まった集約型のまちが形成されているものと考えられます。

◆生活支援、安全・安心で快適な暮らしなどが求められている。

市民アンケート調査結果によると、持続的な発展を遂げていくために力を入れるべき施策として市民意向が高かったものは、生活支援の充実（77.2%）、安全・安心かつ快適に暮らすことのできる定住環境の創出（44.1%）、子育て支援機能の充実（35.8%）などとなっています。

既述したように、本市では、一定の居住環境の確保と都市機能が集まる集約型のまちが形成されていると考えられるものの、本市の持続的な発展には、生活支援、安全・安心かつ快適な暮らし、子育て環境の充実などが欠かせないものと捉えられていることから、これらの市民意向に対応した施策の検討が必要と考えられます。

◆公共交通は通勤・通学による利用が多くを占める。

公共交通の利用については、回答者の約3割が週に1～2回以上利用しており、週に1～2回以上利用している方の利用目的は、特に通勤・通学が多くなっています。

このような公共交通の利用状況や利用目的を踏まえつつ、市民の利便性を高める公共交通のあり方の検討が必要と考えられます。

◆鉄道駅周辺での居住意向は比較的高く、大和高田駅や高田市駅に人気集中している。

「既に鉄道駅周辺に住んでいる」、「できれば鉄道駅周辺に住みたい」との回答者が6割近くを占めており、鉄道駅周辺での居住意向が比較的高いものと推測されます。

その理由としては、通勤・通学をはじめ、様々な場面において交通の利便性が高いことであり、特に人気の高い駅は、大阪方面と連絡し、特急や急行が停車する「大和高田駅」や「高田市駅」となっています。

このことから、今後は、市民の居住意向が比較的高い主要駅などを中心としたまちづくりの検討が必要と考えられます。

(1) ワークショップの目的

ワークショップは、本市の人口減少、少子高齢化などのさらなる進行が懸念される中、まちなかがにぎわうコンパクトなまちを目指し、市民とともに考えながら、計画に反映していくことを目的として実施したものです。

(2) タイトル等

1) タイトル

「みんなで考える大和高田市 まちの未来」意見交換会!!

2) 開催日時・場所・参加人数

日 時：平成 30 年 9 月 16 日（日） 13 時 15 分～ （1 時間半程度）

場 所：市民交流センター 4 階多目的室

参加人数：19 名

(3) ワークショップの概要

ワークショップでは、まず、“みんなで考える大和高田市 まちの未来”をテーマとし、市から本市の現状や参加者で考えたい内容などについて説明がありました。

その後、参加者が A 班、B 班に分かれ、ワーク①、ワーク②の考えたい内容ごとに意見交換を行いました。

【ワークショップでの説明・協議内容】

本市の現状：人口減少・少子高齢化、まちなかの空洞化状況
公共交通ネットワークの状況、公共施設の状況

考えたい内容：ワーク①

- どこにどんな問題があるのか
- 重要だと思う、また不足している“コト”・“モノ”

ワーク②

- 考えていただいたことについて、解決・改善するために必要な取り組み

【ワークショップでの主な意見】

ワーク①

若者などが集まる商業施設が少ない、子どもが遊べる公園などが少ない
歩行者などが歩きにくい、狭い道路が多く危険である、老朽化した空き家が見られる
鉄道の利便性が良い など

ワーク②

若者に魅力的な商業施設の立地
居住環境（住宅地など）の充実
子育て施設（公園など）の充実
道路網の整備、公共交通の連携強化
歩行者・自転車が必要な道路づくり など

